



埼玉支部報 第14号

目次

功労賞をいただきました	1	谷川岳～八海山 山行記	6
ボランティア登山情報交換会	2	忘年山行（清掃登山）に参加して	8
油断と過信・その思い込みが命取り	3	大高取山自然観察会報告	9
自然保護全国集会に参加して	4	会員／会友異動状況	10
「里山資本主義」講演要旨		平成27年度総会のご案内	
新年登山と新年懇談会でスタート	5	今後の事業予定	

功労賞をいただきました

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会設立10周年記念

平成27年1月10日、さいたま市文化センターで行われた一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会設立10周年記念式典において、当支部ふれあい登山の実績が評価され「功労賞」を頂きました。

埼玉支部会員にとって、多くの障がい者とふれあえる機会を得ていることに感謝するとともに、これからも埼玉県における障がい者のスポーツの発展に貢献できるよう継続した活動を推進していきたいものです。

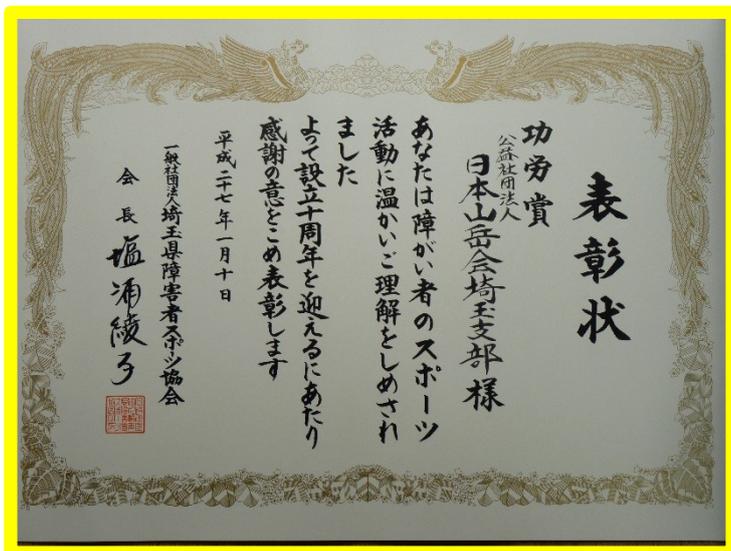
式典の最後には、参加者全員で、これからの埼玉県における障がい者のスポーツの発展を願って「未来宣言」をしました。それぞれの立場で前に進もうという未来宣言ですが、障がい者のスポーツだけではなく、私たち山岳関係者にとっても示唆を得る宣言です。

彩の国障がい者スポーツ『未来宣言』

私たちは埼玉県民の誇りをもって夢に向かい、未来に向けて前進することを、ここに宣言します。

1. 私たちは、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツに親しめる彩の国をつくります。
2. 私たちは、スポーツを生活に取り入れ、豊かな人生をつくっていきます。
3. 私たちは、スポーツで世界に羽ばたけるよう、自分の可能性に挑戦していきます。
4. 私たちは、多くの人たちに、スポーツの楽しさを、伝えていきます。
5. 私たちは、スポーツをとおして、人と人がつながり、地域の絆を広げていきます。
6. 私たちは、すべての人々が、気軽にスポーツに親しめる、地域づくりに努力します。

私たちは、一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会設立10周年にあたり、彩の国埼玉と障がい者スポーツのさらなる飛躍を願い、ここに「彩の国障がい者スポーツ未来宣言」をいたします。



【社会貢献委員会報告】

ボランティア登山情報交換会

大久保 春美

東海支部ボランティア委員会の主催で、平成26年11月8日(土)に情報交換会、翌日9日(日)は猿投山(628.9m)登山(視覚障がい者と)に参加しました。

東海支部ルームで行われた情報交換会には、東海支部会員、本部の支部事業委員会宮崎紘一氏、京都・滋賀支部副支部長の松下政文氏、首都圏会員であり六つ星山の会の星野善久氏、名古屋市盲人情報文化センター原田良寶氏、埼玉支部から大久保の計22名が参加しました。

情報交換会は、障がい者との登山を実施している埼玉支部、六つ星山の会、東海支部からの報告があり、埼玉支部は、障がい者登山の基本的な考え方や過去4回の実施概要について報告しました。六つ星山の会は、首都圏を中心に視覚障がい者との登山クラブで、登山コース(歩行時間、標高差、技術等)をグレード化していること、全国の視覚障がい者登山団体13団体との交流登山は今年で14回を数えているなど、積極的な取り組みが紹介されました。東海支部では、2006年から個人山行として全盲の山田弘さん等との登山を重ね、2009年から支部事業として視覚障がい者支援登山を実施しています。山田さんは、日本山岳会ただ一人の全盲の会員です。

他に、「東海支部のブラインド登山の歴史」について加藤氏からの報告、「視覚障害者から見た登山とは」と題して山田弘氏からの報告、「視覚障害者の登山について」を元名古屋盲人情報文化センター原田氏からの報告がありました。

山田氏は、「山歩きをするためには体力があることが鉄則であるので、日常のトレーニングを欠かさない」とのこと。また、「新たに登山を希望している仲間には、体力づくりをして山に挑むように促している」とのこと。

山にどうやって登かについては「目からの情報がないので、サポーターが目の役割をする。歩くとき、原則としてサポーターの真後ろを歩く。右手で杖、左手で同伴者のザックに手をかける。歩幅・歩調は同伴者に合わせる、両手が塞がっているので木や岩につかまるといのは難しい。特に下りは杖に体重をかけるわけにいかない、慎重になる。視覚障がい者も、ギブ・アンド・テイクの関係でありたいので、やれることはやっていきたい。支部会員としての分担、たとえば情報の入手や宿泊の手配なども受け持っている」など、会員として依存しないで関わることの重要性を熱く語る姿に、とても好感がもてました。



前を歩くのは筆者、後ろが全盲の山田さん

9日は、視覚障がい者14名との猿投(さなげ)山の登山を予定していたが、雨天のために中止となり、個人山行として、視覚障がい者2名(1名は東海支部会員山田弘氏)と東海支部会員4名、および宮崎氏、松下氏、大久保で猿投山に登山し、ガイドも経験しました。

今回、東海支部の呼びかけにより東海、埼玉、京都・岐阜の支部が参加したが、今後は日本山岳会全体に障がい者登山に関する情報を発信していくことを確認し解散となりました。

【安全登山委員会報告】

第10回安全登山講演会

「油断と過信・その思い込みが命取り」

松本 敏夫

今回で10回目になる安全登山委員会による講演会を、平成27年1月24日(土)、13:30~17:00、埼玉県県民活動総合センター・セミナーホールで開催しました。講演会には日本山岳会員及び支部会友(28名)及び県内外の山岳会・一般登山者(26名)を含め総計54名の登山愛好者の参加がありました。講師は、埼玉県警察山岳救助隊の飯田雅彦副隊長をお招きしましたが、平成23年1月に初めて講演を依頼して以降5年連続の安全登山講話となりました。

初めに埼玉県の山岳救助隊体制の説明があり、新たに昨年7月発足した飯能消防署山岳救助隊は飯能周辺の山岳遭難に対応するとのこと。次に、全国の山岳遭難発生概要が報告され、平成25年の全国遭難件数2,172件、遭難者数2,713人で、前年比は上昇。遭難原因の1位は道迷いで、滑落・転倒が2,3位と続き、この傾向は毎年同じであるとのこと。

埼玉県内の平成26年中の遭難件数は69件、遭難者数は88人、死者は9人で、過去最高件数であった。特に、死亡者が9名と秩父市内の交通事故での死者数3名に比べ、著しく多い。

遭難原因の1位は道迷い(39%)で、次が滑落(29%)・転倒(10%)であった。

死亡例9件(蕨山、武甲山、甲武信ヶ岳、雲取山、小鹿野二子山、両神山、天理岳、浦山川、二子山東岳)の原因や搜索の詳細が具体的に報告され、安全登山に対する注意喚起に重要な役割が果たされたものと考えられています。

最後に、「登山者の皆様へ」と題し、

①登山計画(体力、技量に合わせた登山)をしっかり立て、登山届(家族へも計画を渡す)を出しましょう。

②単独登山はリスクが高い、複数で登山しましょう。山岳会に入ることです。

③遭難原因は毎年同じことの繰り返しです、遭難事案から勉強しましょう。

と結論づけられました。

講演会終了時のアンケート調査では、「実例を基にした説明で良く理解できた。また、単独登山のリスクが高いこと、山岳救助隊の苦労が良く理解できた。安全講演会を毎年開催して欲しい。」等の意見が大部分を占め、有意義な講演会でした。



【自然保護委員会報告】

自然保護全国集会に参加して

中村 直樹

日本山岳会自然保護全国集会が、平成26年11月22日(土)、広島支部主催で「人と山の関わり」をテーマに開催され、全国から82名の参加がありました。本部自然保護委員、広島支部の方々の心暖まる歓迎と忙しい中にも自然保護に関する諸問題を話すことができ有意義な時間を過ごすことができました。埼玉支部の報告として、①シカ被害の実態調査 ②森づくり活動 ③自然観察会 ④絶滅危惧種の調査 ⑤自然保護シンポジウムについて発表しました。来年度は東京多摩支部主催、再来年度は四国支部の開催される予定です。

また、基調講演は、日本放送協会報道局チーフ・プロデューサーの井上恭介氏による「里山資本主義 里山が宝の山に変わる瞬間」というテーマで、里山の木くずを電力や燃料にして町を活性化させるサブシステムであり多様性ととらえた興味深い講演でしたので、その概要を次に記します。

■自然保護全国集会基調講演 概要

「里山資本主義」

今話題の「里山資本主義」はNHKの井上恭介氏が、中国山地の異様に元気なおじさん達の革命的行動に衝撃を受け、藻谷浩介(地域エコノミ

スト・「里山資本主義」の著者)とタッグを組んで「里山資本主義」という言葉を作り1年半にわたって取材制作を展開した。

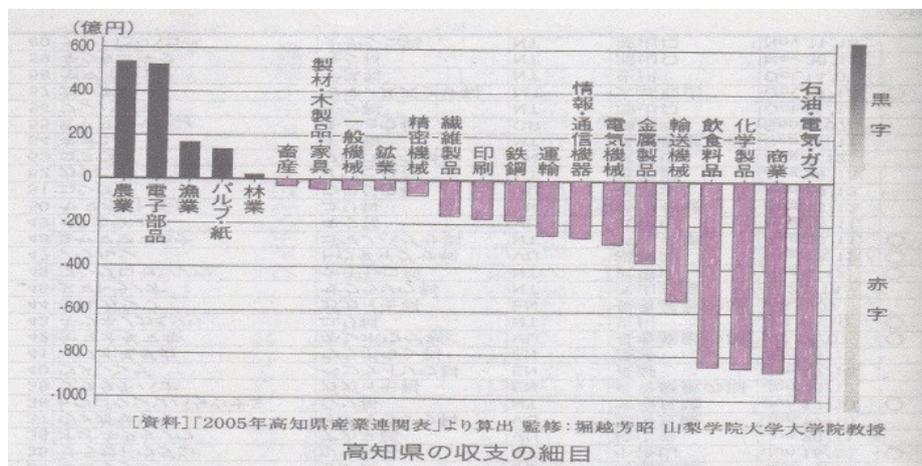
講演の挨拶で井上氏は「美味しいお酒を造るには美味しい水が要る、その水を守るためには山の手入れをしないといけない」と話された。これぞ自然保護の原点と感銘を受ける。

「里山資本主義」は(20世紀の常識から21世紀へ、転換のキーワード)、鉄やコンクリートといった硬くて強いものを好むマッチョな経済ではなく、やさしさと多様性のある「晴耕雨読」的な世界である。マネー資本主義の生む歪みを補うサブシステムとして社会の脆弱性を補完するものである。

<域際収支分析>

域際収支は、商品やサービスを地域外に売って得た金額と逆に外から購入した金額の差を示す数字で、いわゆる貿易黒字なのか、貿易赤字なのかを都道府県別に示したものである。廃物利用のペール缶で作ったエコストーブで暖房・煮炊きして電気代を節約し、かんな屑を円筒状に固め1kg20円の燃料で発電事業に乗り出し、一般家庭の暖房や農業用ハウスのボイラー燃料として急速な広がりを見せ、赤字を軽減し地域が豊かになっている。

里山資本主義は、こうした赤字部門の産業を育てることによって、外に出ていくお金を減らし、地元で回すことのできる経済モデルであることを示している。



新年登山と新年懇談会でスタート

右川 清夫

平成27年1月17日、西武線西吾野駅に登山参加者20名が集合。普段の日帰り山行の装備という案内だったが、気象情報は、日本海側は雲に覆われ夜は雪や雨のところが多いとの予報。最大風速は関東が25メートル、16日午後6時までの24時間に予想される降雪量は多いところで30センチの見込み。低気圧は前線を伴いながら日本の東海上を、東寄りに移動。そこへ暖かく湿った空気が流れ込んで、大気の状態が、非常に不安定という予報だった。しかし17日朝は快晴、ただ、大久保支部長は体調不良で不参加。リーダー宮川さん指導の登山体操で、寒さで固くなっている体をほぐす。電車を待つ間も気温は低く、風もあるので体感温度は奪われ、登る前から完全武装で歩き出す。

8:40 車道を北川沿いに萩の平コース登山口。高畑砂防ダムを過ぎて10:05 展望台に出る。武甲山、大持山、小持山がくっきり見える。大滝へ寄り道する。水量は少ないが滝の景観に見とれる。10:30 不動の滝(584m)は水が枯れていた。10:55 沢に白滝では快晴だった空も雪雲に覆われてあられ交じりの粉雪に見舞われた。

11:15 関八州見晴台771m。全員写真撮影ののち、各々陽だまりを探して昼食。さすがに景観は南西に関東平野が見渡せ、スカイツリーもくっきり見えた。あられの粉雪に吹かれて昼食もそこに退散。12:45 高山不動で今年1年の安全登山を祈願。本堂前の階段で集合写真を撮る。天然記念物大銀杏は高さ37m幹回り10m、根回り12m、樹齢800年。乳銀杏とも呼ばれ空中に露出し垂れ下がる気根が乳房を連想させ、安産、子育てに靈験ありとされている。

杉木立の中の立て看板にパノラマコースと書いてあるのに、みんなで何がパノラマなのかとブツブツ言いながら、西吾野駅へ14:20に到着。新年会の集金ののち、明日以後の足腰の痛み防止

の事後体操を宮川リーダーの号令で一糸乱れずの集団行動は目を見張る。目配り、気配りの宮川リーダーのもと楽しい団欒の中に無事下山。感謝。共同装備のため宮川さんのリュックは重そうだった。

15:03の飯能行きの暖房の効いた電車の中でみなぐっすりと体を休め、東飯能下車。寒風の中を食事処「極和美膳暖らん」に到着。

16:00 開会 支部長挨拶は副支部長、松本敏夫氏、続いて27年度年間行事計画の発表が富樫事務局長。山行集会委員会高橋委員長から年間計画。安全登山委員会松本委員長から講習会、講演会の年間計画の発表があった。配られたスケジュール



にはまだ未定のものもあったが、配られたアンケート結果に基づいて決定したい旨説明があった。続いて障がい者ふれあい登山が4月19日に行われる旨、富樫氏から発表。自然保護委員会から吉田氏による年間行事予定発表があり、委員の積極的な参加が求められた。総務委員会富樫委員長が各委員会間の調整など、支部の中心的な役割をしているとの説明があり、日ごろのご苦勞を身に染みて感じた。続いて第31回全国支部懇談会”四国の山はなぜ美しい”をテーマに行われる四国支部の行事が4/11~4/12に小島烏水祭併催で開催されるのでぜひ参加をと、呼びかけがありました。

16.35 お待ちかねの新年会を開始する。飲み放題の2時間は参加メンバー一人一人のそれぞれの山登りに寄せる思いがこもると語られて、メンバーの素顔が浮き彫りされ懇親がより深まり

有意義な新年会だった。終わって店のバスが東飯能、飯能まで送ってくれ、おお助かりだった。正田夫妻は立山で行われた雪崩事故対策講習会に支部代表で参加。我々の行事の最中北アルプスや妙高でバックヤードスキーの雪崩事故が相次ぎ、あらためて自然の厳しさに襟を正す思いだ。

【四季の山（秋）】

谷川岳～八海山 山行記

富田 容子

平成 26 年 11 月 1 日 2 日 四季の山 秋 谷川・八海山山行に参加しました。

1 日、雨が降る大宮駅・川越駅でお馴染みのバスにピックアップして頂き、関越道で谷川へ向かいました。渋滞で到着が遅めだった事と引き続き雨が降っていたので、登ることをあきらめ、傘をさして一ノ倉沢を眺めに行くお散歩で足慣らしをしました。

雲の多い紅葉の景色は、晴れた紅葉とはまた違う美しさがあり、新たな発見となりました。水滴のついた葉や実に光が当たってキラキラしていましたし、舗装路には紅葉した葉がたくさん落ちていて、赤オレンジ黄色に彩られていた上に、皆の傘やレインが色とりどりでしたので、とてもカラフルなお散歩となり秋の雨ならではの経験でした。

その後、関越トンネルを超えたところでは雲は多いものの雨は止んでいて、翌日の八海山に備え早めに就寝し十分な休息を取れました。



2 日目八海山は、朝は晴れ・午後には雨の予報でしたので、始発のロープウェイに乗車して、稲越 CL を先頭に空の様子を気にしながら登山開始しました。

濡れていましたが 6 合目の女人堂までは普通の登山道で、楽しく会話をしながらの登山でした。しかしそこから 8 合目薬師岳までは急な登りが続き、会話の内容がお互いの安全確認になり…9 合目の千本檜小屋からは急登をがんばった人へのご褒美景色がパーンと開けていました！

視界を遮るものがなく、越後駒ヶ岳や中ノ岳が、秋の長い日差しの影響かより立体的にはっきりと見え、非常に印象に残る景色でした。そこから 8 つの峰を超える道は、高度感の好きな人にはテーマパーク状態で、長い鎖場やハムスターの廊下みたいな細い足場が続き、もはや会話のない緊張した空気の連続でしびれました。

大日岳の山頂では強風の中、記念撮影だけで足早に下山を開始し、鎖場の連続が終り千本檜でやっと休憩が取れた時に、危険個所が終わるのを待っていたかの様に雨が降り始めました。そこからは雨の下山となりましたが、この雨のおかげか5合目付近で近くに生息するモリアオガエルに会えました。2cm弱と小さな個体でしたが、黄緑と丸い黒い目がとてもきれいで、少しだけ触らせてもらいました。かわいかったなあ。

きれいな景色、少しレベルアップできた登山経験、珍しいカエルと充実した経験ができました。リーダー富樫さん、稲越さん、沢山教えてくださった人生経験豊かな参加の皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。



忘年山行（清掃登山）に参加して

村越 百合子

今回、忘年山行（清掃登山）に初参加させて頂きました。私は登山を始めて1年と10ヶ月です。皆さんと比べるとまだ何も知りません。

12月13日（土）（1日目：芦ヶ久保駅～沢コース～二子山～尾根コース～富士浅間神社～芦ヶ久保駅）、グループ分け（1班と2班）をして二子山の登山口を出発です。皆について行くのに必死でした。

12月14日（日）（2日目：武甲山・一の鳥居登山口～シラジクボ～小持山～大持山～妻坂峠～一の鳥居登山口）、今日は自分がある2班が先に歩きました。ただ、皆に迷惑をかけないで一緒に行動する事に集中しました。

初めて「埼玉の山ってこんなにゴミがあるのか」と思いました。TV名峰百名山では、両神山（上級コース）に沢山のゴミが落ちていた事に驚きました。私は白井差コースに行った事がありますが、ゴミはありませんでした。（外国の）山岳ガイドが言っていた事は、「ビニールは時間が経てばなんとか土に戻る、でもビン・缶は戻らない」という言葉がとても印象的で心に響きました。以前、NHKで野口健さんが話していた「日本人とゴミ問題」と同じ事を言っていました。例えば登山口入口や途中の御手洗が汚いから使いたくない気持ち、一つゴミがあるだけで一人又一人と置いて行く心理わかります。

私が2日目に歩いた武甲山入口（一の鳥居登山口）迄、40分～50分位歩きシラジクボ迄、沢山のゴミがありました。家庭ゴミと思われるものがあちこちに散らばっている風景を見て、とてもショックでした。改めて個人個人の自覚が不足しているのかなと思いました。皆さんの一人一人の思い一つで、山・公園・街だってゴミがゼロになるのです。協力が必要です。面倒に思わずに持ち帰って置いてこない気持ちが欲しいです。料金制の御手洗も同じだと思います。協力する人・しない

人がいます。担当の方、作業の大変さ、を知って欲しいです。これからは自分も注意しながら行こうと思っています。

今回の参加は自分にとって、とても良かったです。最後に埼玉支部の方には大変お世話になりました。上手な人達が沢山いた事、下手な自分がいした事に申し訳ない気持ちで一杯でした。でも、これからはゆっくり進んでついて行きます。色々頑張って一員になりたいと思っています。



二子山山頂にて



大持山山頂にて

【自然保護委員会報告】

越生町民との交流が図られた
大高取山自然観察会

高嶋 徳紘

平成26年11月30日、越生町教育委員会の後援を頂き実施した観察会は、好天の下40名(昨年41名)参加で行われ、地元10名の中に、歴史的建造物所有者の重鎮金子和弘様の参加により、国登録文化建造物を見学するという場が更に設定された、まさに地元密着型の理想的観察会であった。

参加者を大別すると、地元参加者10名、他の自然保護団体11名、支部会員19名(内自然保護委員13名)であった。

(アンケート回収は21名で、支部員からの情報での参加16名、植物に特に関心のある旨の回答が16名、再度参加したい旨の回答16名)。駅から取付きまでこんなに近いとは思わなかったのが、再度参加したい理由の多数であった。

自然保護委員会として今後の展開

①地元の方々の参加で、観察会は新たなステップアップに繋がることが確かになった。

金子夫妻を中心に輪を広げ、新たに文化財建造物を取り入れた観察会を次年度から加えたい。

②参加者を3班(地形地質)(植物)(歴史)に分け、更に分野別に分けたが、40名では8班が適当な配置であることから、解説員増員が必要であり、総勢16名の解説員が求められるので、対応を考慮しなければならない。

③地元の方しか知らない事象を掘り起こし、広く宣伝に努めるべきであること。

教育委員会生涯学習課文化財担当 近江哲氏より「次回開催を楽しみにしております」とのメールを頂いております。氏は文化財の内、埋蔵文化財、特に化石担当とのこと。

新たな展開が頂けそうです。教育委員会としては、地元住民の参加を特に希望しており、それは新たな町興しにつながる方向付けができれば最高だとのこと。当委員会としても地域貢献の一翼を担うべく頻度を増やし、深い歴史と不思議な地質をもつ越生町に寄与したいと考えております。



全国「山の日」フォーラム開催のご案内

主催：全国「山の日」フォーラム実行委員会

日時：平成27年3月28日(土)29日(日)

場所：東京国際フォーラム

内容：講演およびパネルディスカッション

※詳細は2月初旬に決定。HP等で確認を。

(プログラム案)

1日目：メインテーマ：「山の日」と「地方創生」

第一部「山の日」から地域の活力が生まれる

第二部「山の日」から「新しい森林の創生」が見える

- ・森林・林業 もりづくりの新しい動き

- ・森林セラピーのすすめ

- ・水源としての森林

2日目：メインテーマ：「山の日」と「山と自然の安全」

第一部「安全のための地域整備」を考えよう

- ・山岳遭難救助の現場から

- ・登山届の現状と課題

- ・自然災害と山岳遭難の地域整備

第二部「安全のための知識と方法」を考えよう

- ・子供達の自然体験活動と安全対策

- ・登山者に必要な体力とトレーニング

- ・山と自然の危険を考えよう

埼玉支部の会員異動

(平成27年1月31日現在 145名)

入会：村越百合子 (No. 15632)

高妻潤一郎 (No. 15672)

(会友異動)

村上光明 (K0016)

：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：

平成27年度総会のご案内

日時：平成27年4月18日(土)

午後13時30分(受付13時～)

場所：埼玉会館 3C(けやき)

1. 審議事項

平成26年度事業報告

平成26年度決算報告

平成27年度支部役員の選出

平成27年度事業計画

平成27年度予算

2. 報告事項

※欠席の場合、委任状の提出をお願い致します。

懇親会

総会に引き続き開催します。

時間：午後15時～

場所：埼玉会館1階「シンフォニー」

会費：4000円

埼玉支部事務局からのお願い

住所はもちろんですが、

特にメールアドレスを変更された場合、

事務局へのご連絡をお忘れなく！

事務局 富樫

toga913nt@ybb.ne.jp

月	今後の事業予定
	(注)最終的な日時・場所、内容の変更などはホームページ、メールを参照下さい。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・7日 埼玉100山(塚山)☆☆ ・14～15 四季の山(冬)八ヶ岳東天狗岳 ☆☆☆(アイゼン・ピッケル使用) ・21日 心肺蘇生法とAED使用法講習会 13時～大宮・川鍋ビル
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・7日 埼玉100山(若御子山)☆☆
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・5日 総会記念山行(志賀坂諏訪山)☆ ・11～12日 第31回全国支部懇談会(四国支部) ・18日 平成27年度総会 ・19日 ふれあい登山(長瀬アルプス～宝登山) ・29～30日 森づくり研修会(高尾の森)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・16日 埼玉100山(長尾丸山)☆☆ ・30～31日 3支部合同登山(雲取山)☆☆
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・13～14日 四季の山(春)笠取山～ 将監小屋泊～飛龍山 ☆☆☆ ・未定 ハイキングレスキュー講習会 ・13～14 ブナ林・湿原観察会(玉原高原)
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・5日 埼玉100山(宗四郎山)☆☆ ・未定 森づくり(さいたま緑の森博物館周辺)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・1～3日(2泊3日) 四季の山(夏)未定

【編集後記】新年あけましておめでとうございます。執筆いただいた皆さんには速やかに原稿をお送りいただきありがとうございます。クロネコメール便の廃止が決まり支部報の発送については予算的に痛手になりますが、年3回はきちっと発刊していきたいものです。(H・O)

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第14号
2015年(平成27年)2月15日発行
公益社団法人日本山岳会埼玉支部
発行者：大久保春美

事務局：〒365-0053 鴻巣市緑町5-16 富樫方
e-mail: toga913nt@ybb.ne.jp

HP:

<http://jac.or.jp/info/shibudayori/saitama/index.html>

